

第70回記念埼玉県美術展覧会 審査評

【第4部 工芸】

○総評

審査主任 はなわ 花輪 しげみ 滋實

3年ぶりの県展となり出品数が気になっていましたが、応募総数は前回より微増で、301点の搬入がありました。内訳は、一般195点、会員106点、入選数は一般が77点、会員が72点で合計149点、入選率は49.5%になりました。大変厳しい結果となりましたが、70回記念展ということをおまえて、見ごたえのある高いレベルの県展になりました。工芸というジャンルを理解して制作された方にとっても高いハードルになったのではないかと思います。素材・創造性・技術の中で十分力を出せなかったものがあるとしたら、その作品は弱さを感じてしまうことになりませんかと思えます。総合的に作者が何を表現しようとしているのかを見る側に強くアピールしてください。

入賞された10点は力強く自己表現をされていました。「継続は力なり」。これからも作品作りを続けて楽しんでください。

○埼玉県知事賞

「まちぶせ 待ちぶせ」 くまい 隈井 じゅんこ 純子

ハイヒールの上にちょこんと花を持って腰掛けているテールコート（燕尾服）を着たカエル。イギリスの絵本作家ビアトリクス・ポターの物語のような作者の世界観を感じます。この作品は鋳起技法で一枚の銅板から絞りあげたハイヒールに座ったカエルに、銅と真鍮で細工した花とリボンを持たせ、数種類の金工着色技法も駆使して、緻密に作り上げられた非常に完成度の高いものです。「待ちぼうけ」にも見えるのは、作者のユーモアなのでしょうか。

○埼玉県議会議長賞

「ごかくけいし 五角形敷き詰め」 つよせぎふぼこ 寄木文箱」 みずの 水野 けんきち 健吉

作品全体が変形五角形の寄木作りの文箱になっています。材料は薄茶色の神代楡で、落ち着いた感じがあります。年輪と木が持っている斑との景色がとても美しく、寄木作りの面白さを存分に表現しています。長辺の側面には組合せを変えた文様が施されており、変化があってとても面白い仕上げになっています。繊細な寄木の仕事の美しさと、作者の感性の豊かさを感じます。

○埼玉県教育委員会教育長賞

「いとめだつまかま 糸目達磨釜」 ながの 長野 あらた 新

糸目の筋は穏やかに波紋が広がり、ちり緬の肌はきらきらと光の中できらめく水面を見るようです。

又鍔付の巻貝やうろこの透かし文様のつまみは達磨の造形と響き合い、より作者の想いを伝えるのに効果的です。

静寂な茶室での一服は、日常から開放され豊かな気持ちへといざなってくれる事でしょう。

○第70回記念賞

もり うた せ た ゆきえ
「森の詩」 瀬田 幸江

窓のような穴の中から、小鳥たちのさえずりが聞こえてきます。森の中に誘い込まれるような楽しさを感じます。作りは素朴なのですが、のびのびと制作している様子がうかがわれ、全体構成も親しみのあるものになっています。

このような大らかさを大切にして、更に豊かな経験を膨らませていってください。

○埼玉県美術家協会賞

ねこ よこやま ようこ
「猫のひげ」 横山 洋子

植物の「ネコノヒゲ」をモチーフに、的確な観察力でネービーブルーの地色の中にシンプルに構成しています。刺繍糸もあえてモノトーンを中心に選定したことで、対象の特徴を生かした繊細な刺繍による気品ある佳作に仕上がっています。特に花びらやひげの技術も素晴らしいですが、葉の緻密で巧みな表現は作者の造形に対するセンスを感じさせます。今後の展開をさらに期待しています。

○埼玉県美術家協会賞

こくゆううわえかちむしもんあさばち あさか かずみ
「黒釉上絵勝虫文浅鉢」 浅香 和美

たっぷりと黒釉を掛け焼成した平鉢に上絵付けで装飾した作品です。四方に描かれた勝虫（トンボ）や円周の上絵付けには掻き落とし技法により、緻密な文様が施されています。上絵付けの彩色は金彩をはじめマットな仕上がりにより作品全体がシックな印象で魅力的です。この良さを更なる作品に活かして頂きたいと思います。

○埼玉県美術家協会賞

ふうつうおり くさ あつみ こ
「風通織つゆ草」 渥美 セツ子

風通織は、重ね組織の一種で表組織と裏組織を所々入れ替え、色系の出方を変化させ、表裏に反対の色合いで同形の柄を出す織り方で二重織りともいわれます。

この作品は経糸・緯糸に染色の妙を感じさせる配色で、とりわけ表題の「つゆ草」を想わせ若草色と青の色合いが爽快さを覚えます。

風通織の特徴を巧みに生かした作者の高い感覚と技量、研究心が感じられます。

○毎日新聞社賞

「カラスがなくから」 かまた ひかる
鎌田 晶

この作品は鉄の鍛金技法で作られた、頭部が赤い拡声器のカラスです。この姿からは「カラスがなくから帰ろう」と言う穏やかな夕暮れ刻を表現したようには思えません。ゴミ置き場を荒らす獣害がテーマなのでしょうか、賢い生き物と言われるカラスから人間への警告なのでしょうか。赤い拡声器のカラスからは、様々な想像ができる世界情勢でもあります。確かな造形力と発信力を持った作品ということで、毎日新聞社賞となりました。

○埼玉県美術家協会会長賞

よしみさんか もりた きょうこ
「吉見讃歌」 森田 恭子

形の作り方は、「木彫」で桐を彫って作り、顔や手は胡粉と膠^{にかわ}を練り、何回も塗り重ねています。仕上げは溝をつけた胴体に糊をおき、そこに染めた布の端を詰めて貼る布木目込みになっています。

作品は、圧巻の安定感、存在感が見る人の心を魅了します。

色彩のバランスのとれた衣装裂の組み合わせ、穏やかで優雅な顔立ち、細部にわたって技法の手際良さが伺われます。卓越した技量から醸し出される魅力を十分に感じることでできる品格ある秀作です。

○高田誠記念賞

ほんゆうぜんぞめおび さ くろだ まり
本友禅染帯「咲きこぼれる」 黒田 眞理

題名の「咲きこぼれる」が鑑賞者に素直に伝わってくる本友禅染による美しく色彩豊かな秀作です。桜のはなびらのみで全体を構成していますが、単調な印象や退屈な意匠にならないように、暈^{ぼか}しの表現を多用しながら赤系中心の配色の中にダークグリーンを効果的に配置しています。特に技法の特徴を生かした糸目糊の技術と胡粉^{ぼか}暈しの表現は素晴らしく作品全体を引き締めています。